資料１－２

気仙沼市緊急産業復旧プロジェクト

平成２３年８月２７日提案
震災復興市民委員会

【１】現状と再生への課題の整理

① 圏域の経済の中心

当圏域には、遠洋漁業・近海漁業・沿岸漁業・養殖業と歴史の変遷があって様々な漁業が存在し、これに繋がる水産加工業（食品製造業）があり、さらに漁業加工業ともに関連の企業があって、圏域経済の約８割を形成していると言われている。この関連分野が圏域の中心であることは疑う余地のない事実であり、「この分野の復旧復興が遅れれば圏域の未来は無い」という市民委員の共通の理解から、今後の緊急的な産業復旧の方向性を考えるために、漁業ほか水産加工業にカテゴリー（魚種）別に市民委員会との情報交換会を開催することとした。　※情報交換会の実施状況については７ページ参照

② 漁業と水産加工業の被災状況と現状

業界との情報交換会によれば、普段当地に船のいない遠洋漁業を除き、被害は甚大であるものの、漁業者については、いずれも自身の出漁の準備はある程度出来ていることがわかった。また水産加工業者でも工場の目途も立ち、前へ進もうとしている、または計画を立てている業者もあることがわかった。

③ 現状での課題

しかしながら、市場の施設復旧は勿論のこと、例えば近海船で水揚げされる魚は一種類ではなく、サメ、まぐろ、メカジキを扱える加工場が市内に揃ってないと船は水揚げが出来ず、つまりは出漁できない状況にあり、同様にふかひれ加工業者は、メカジキを扱う加工場が稼働しないと原料のひれが入らない、メカジキ屋さんは冷蔵庫屋さんが稼働しないと動けないという状況にあり、直接間接、原料・資材・設備等が様々に絡み合う当地の水産の特徴が如実に表れている現状であり、サンマや鰹の様に単一魚種の船でさえエリアで冷凍設備の復旧が進まないため生に限定しての扱いにならざるを得ず、漁業・水産加工業ともに少しずつでも全ての関連が同時に立ち上がることが必要であることがわかった。

④ 課題の整理

以上、この分野の現状から課題を整理すると以下の通りと考えられる。

○市場機能の回復

・全魚種への対応が出来ていない。嵩上げ、荷捌き場、水、電気、氷、衛生面など更に詳細を詰める必要あり。

○市場、工場の周辺環境の整理

・市場が本復旧し、工場が稼働しても、周辺の瓦礫や衛生面がこのままでは、バイヤーが難色を示す可能性あり。

○自社工場のインフラ整備

・工場内の片づけや修繕とは別に電力、上水道、排水の問題があり、全市的な情報の共有と協議、戦略が必要。

○市の復興計画と自力復旧との整合性

・各社の自力復旧工事と市の計画との整合性を持たせるため、エリア別の市土基盤整備方針の明示が必要。

○人材確保と流出の時間的リミット

・失業保険の期限と人材の流出防止のため、来年３月までの稼働が必要。

○漁港と漁場の環境整備

・海中の瓦礫の更なる撤去、漁港の嵩上げやビットなど最低限の整備

○市内冷蔵施設の現状把握と復旧

・工場と同様に、冷蔵庫が無い加工業者が多く、その重要性から、復旧可能な冷蔵庫の把握と共同利用の可能性の検討が必要。

【２】水産加工業の今後の選択肢

水産加工業者との情報交換から、復旧の選択肢としては以下通り分類されると考えられる。

①	独自の力で	同じ場所で	
②	〃	別の場所（海）で	
③	〃	〃　（山）で	
④	市の支援で	土地のみの加工団地（海）で	※永久的な投資
⑤	〃	〃　（山）で	〃
⑥	〃	建物付きの加工団地（海）で	※暫定的（将来は元の場所へ）
⑦	〃	〃　（山）で	〃

※汚水処理施設の共同化、地下水利用の問題も存在する

【３】復旧再生に必要な手順

本分野の緊急的な復旧再生にむけては以下の項目を同時に推進する必要があると考えられる。

① 被災企業の把握

・被災企業の現状と今後の希望や方向性を個別に聞き取り、全市で把握、調整をする必要あり。再生の選択肢を聞き取る中で、加工団地の需要や冷蔵庫の見通し、共同利用についての検討に繋がるものである。多数の企業のヒヤリングが必要であり、アンケートから個別のヒヤリングが必要。学生ボランティアなどの活用も可能と思われる。

② 従来の場所での復旧のためのインフラ整備の作戦会議

・従来の場所での復旧を目指す企業については、当該地区の用途制限や嵩上げの市の方針のガイドラインを明示し、将来の計画と当該企業の復旧工事が合致するよう調整していく必要あり。

・またこれらの企業については、電力・水道・下水道などインフラの復旧について相談に応じる必要あり。更に、それらをまとめ全市的な戦略を東北電力、上下水道課と協議する必要あり。

③ 加工団地（４種）への移動復旧を希望する企業への対応

・様々な事情があり移転を希望するものであるので、希望業者と希望タイプ、広さを把握し、可及的速やかに土地の確保を実施すると同時に、インフラの整備、地下水利用、共同汚水処理対策を講じ、造成業者、建設業者を確定、工事に入る。３月に稼働出来る状況がベスト。

④ 冷蔵庫の現状把握と修理、共同利用の検討

・冷蔵庫（凍結庫・超低温・冷凍庫）の重要性から市内各冷蔵庫の稼働の見通しを把握するとともに当該施設へのインフラ復旧の戦略を協議し、その後の共同利用の可能性の検討をする必要あり。

⑤ 魚種ごとの流通検討会

・情報共有と対策の検討のため魚種ごとに検討会を開催する必要があると考える。また今後、復旧した後も競争力のより強い業界に進化するための協議協働のためにも実施していくことが望ましいと考える。

【４】推進体制

本プロジェクトの推進母体はその内容から以下の組織で推進すべきと考える。

・第一候補・・・漁協が推進

・第二候補・・・○漁　協　　＋　会議所　＋　市　　で推進

・第三候補・・・○　市　　＋　漁　協　＋　会議所で推進

・第四候補・・・○第三者機関　＋　　市　　＋　各組合

※○印は中心となる組織

【５】本プロジェクトの最終的な目標　（復旧から復興へ）

今回の情報交換は一部の企業ではあったがその中で、本業界には様々な組合が存在するものの、相互協力や業界としての高度化など様々な角度から戦略を検討して来た経緯は無く、今回の震災の復興を機に、単なる復旧ではなく、以下の項目の様な以前より強い業界に仕上げていく名実共の復興を最終目標とすべきと考える。

① 商品構成の棲み分けと、相互ＯＥＭなどによる設備投資無しで商品ラインナップを拡大出来る協力体制の確立

② 商品の共同開発

③ 一次処理、二次処理の共同化、分業化

③共同地下水や汚水処理施設の利用

④販売網の共有、協力

生も加工も個々の企業から

『チーム気仙沼』への脱皮

地域も団体も企業も、

私も公も、子供も大人もお年寄りも、

それぞれがそれぞれの立場で、

この地域の子供達（みらい）のために！

産業界との情報交換会実施状況

1　漁業関係者

日　時　平成23年8月5日（金）午前10時～午後0時20分

出席者　近海かつお・まぐろ、遠洋鮪漁業、小型漁船、定置網関係者 5名

震災復興市民委員会 2名（高橋正樹リーダー、小野寺靖忠サブリーダー）

2　水産加工関係者

日　時　平成23年8月5日（金）午後6時～午後8時

出席者　ふかひれ加工業者 4名

震災復興市民委員会 3名（高橋正樹リーダー、小野寺靖忠サブリーダー、千田満穂委員）

震災復興会議 1名（菅原昭彦委員）

3　さんま加工関連事業者

日　時　平成23年8月9日（火）午前10時～正午

出席者　さんま加工関連事業者 7名

震災復興市民委員会 3名（高橋正樹リーダー、小野寺靖忠サブリーダー、千田満穂委員）

4　サメ・カツオ等の仲買人

日　時　平成23年8月9日（火）午後2時～午後4時

出席者　サメ・カツオ等仲買人 6名

震災復興市民委員会 3名（高橋正樹リーダー、小野寺靖忠サブリーダー、千田満穂委員）

震災復興会議 1名（菅原昭彦委員）

5　マグロ加工関連事業者

日　時　平成23年8月10日（水）午後1時～午後3時

出席者　マグロ加工関連事業者 4名

震災復興市民委員会 3名（高橋正樹リーダー、小野寺靖忠サブリーダー、木戸浦健歓委員）

6　イカ加工関連事業者

日　時　平成23年8月10日（水）午後4時～午後6時

出席者：イカ加工関連事業者 3名

震災復興市民委員会 3名（高橋正樹リーダー、小野寺靖忠サブリーダー、千田満穂委員）

震災復興会議 1名（菅原昭彦委員）

7　養殖事業者

日　時　平成23年8月18日（木）午後2時～午後3時45分

出席者　大島地区、鹿折地区、松岩地区、階上地区の養殖事業者 10名

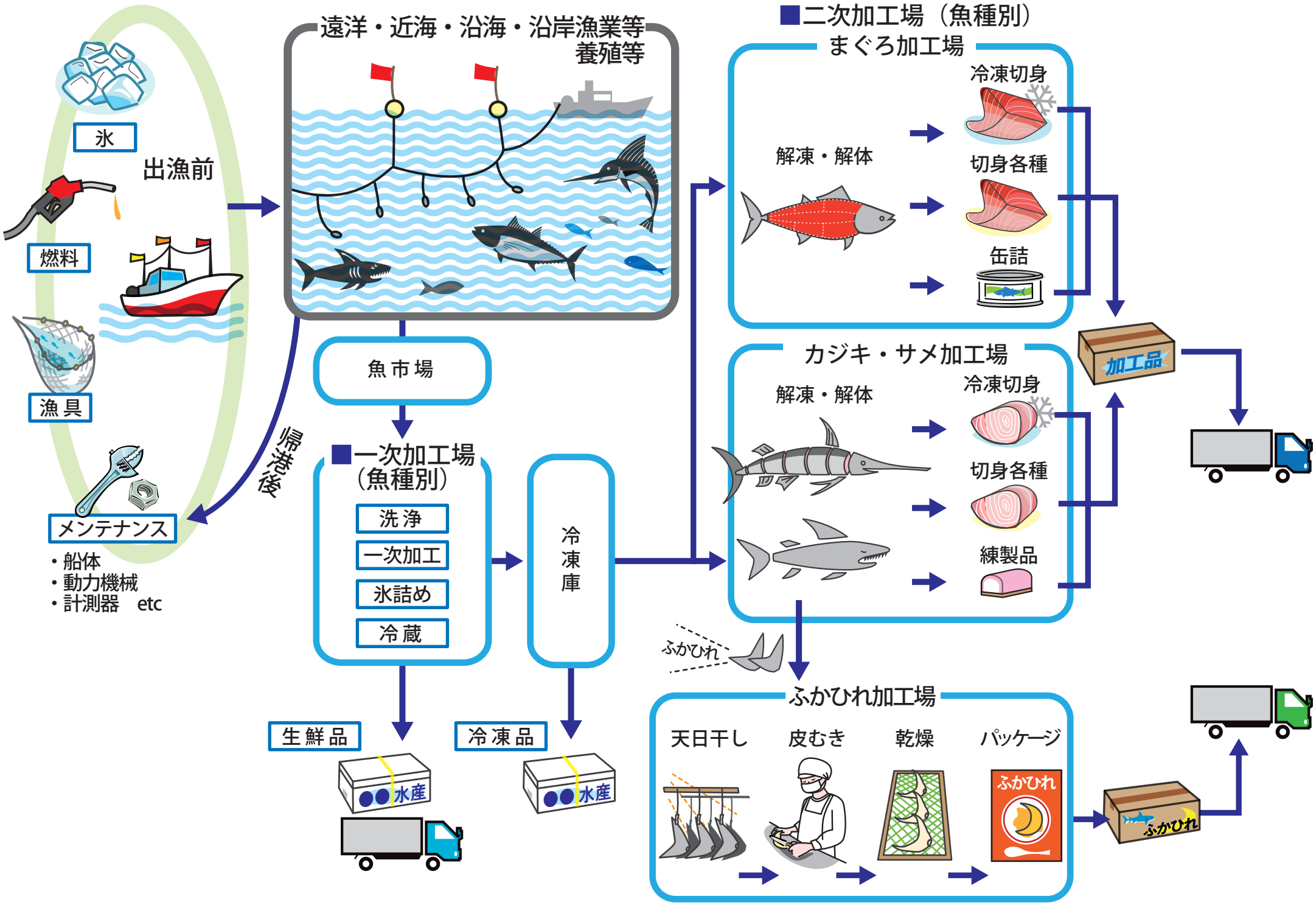
震災復興市民委員会 2名（高橋正樹リーダー、小野寺靖忠サブリーダー）

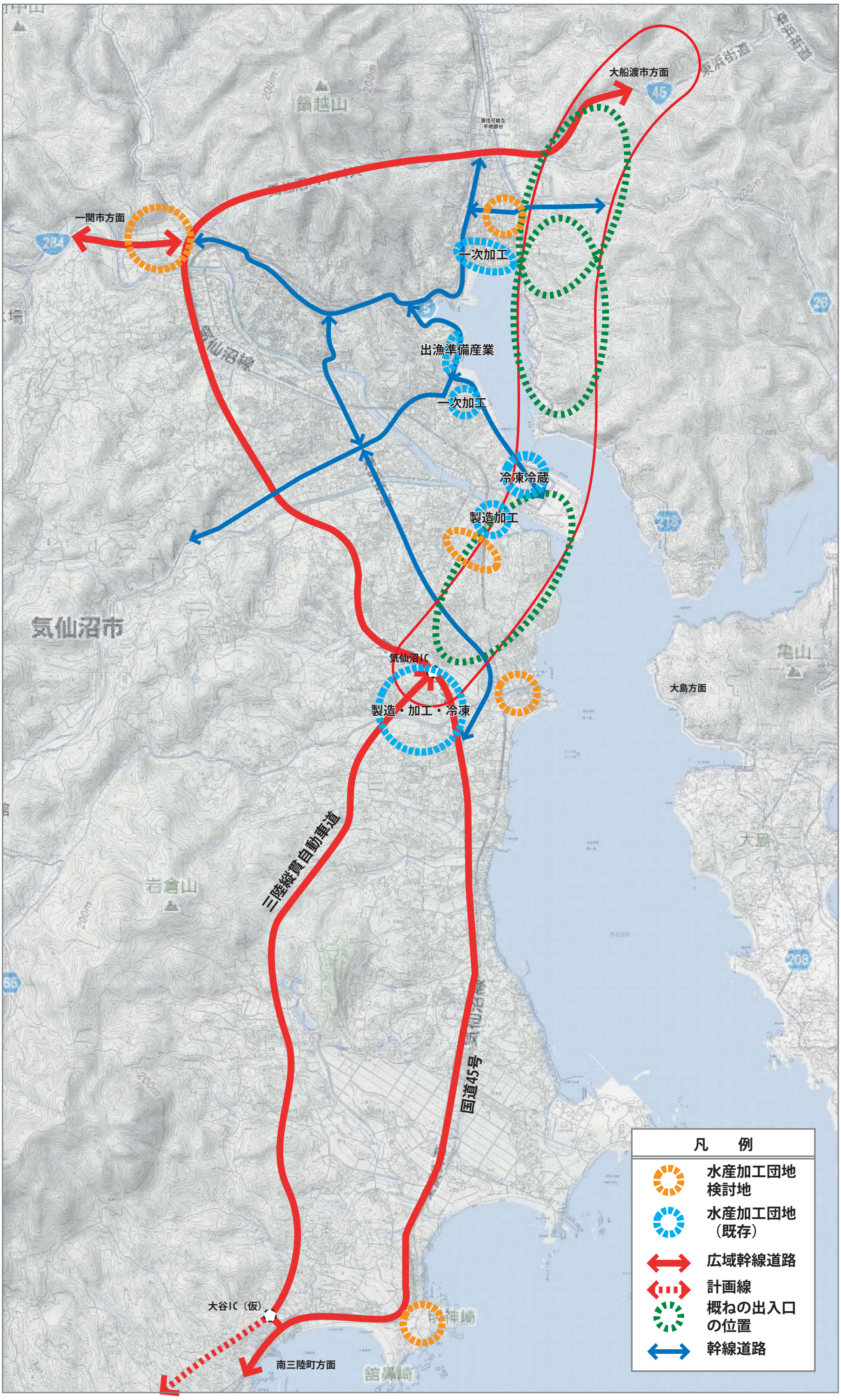
8　観光関連事業者

日　時　平成23年8月22日（月）午前10時～正午

出席者　観光関連事業者 8名

震災復興市民委員会 3名（高橋正樹リーダー、小野寺靖忠サブリーダー、木戸浦健歓委員）


遠洋・近海・沿海・沿岸漁業等
養殖等
氷
出漁前
燃料
漁具
メンテナンス
・船体
・動力機械
・計測器　etc
帰港後
魚市場
■一次加工場
（魚種別）
洗浄
一次加工
氷詰め
冷蔵
冷凍庫
生鮮品
冷凍品
水産
水産
■二次加工場（魚種別）
まぐろ加工場
解凍・解体
冷凍切身
切身各種
缶詰
カジキ・サメ加工場
解凍・解体
冷凍切身
切身各種
練製品
加工品
ふかひれ
ふかひれ加工場
天日干し
皮むき
乾燥
パッケージ
ふかひれ
ふかひれ



三陸縦貫自動車道については8月公表資料の概ねのルート（500m幅）、出入口の位置を示しています。